

1 5Gを活用した救急医療分野のフィールド実証 ⇒急性期の医療分野のスマート化

【概要】

本市の医療の中核的な役割を担う刈谷豊田総合病院の年間救急受診者数は約35,000名、救急車受け入れ台数は約10,200台と地域の救急医療を支えている。市民の命を守る最後の砦となる救命救急体制と診療品質の維持・向上は、市民が安心して暮らし続けるため必要不可欠である。

そこで、医師を現場まで派遣し、より早期に重症患者に対応するドクターカーにおいて、5Gを活用して救急現場のリアルタイム映像等を病院へ伝送することによる、早期治療への効果など検証し、地域の救急医療水準の向上につなげる。

【実証内容】

救急現場



- スマートフォンで救急現場の様子を撮影  
⇒映像伝送システムにより、リアルタイム映像を病院へ配信
- 可搬型心電図モニターを活用  
⇒バイタルデータをリアルタイムで病院へ配信
- 現場スタッフの位置情報を伝送  
⇒病院到着までの正確な時間の把握が可能



刈谷豊田総合病院



- 映像伝送操作実施
- 映像伝送システムによる配信映像と心電図モニターによるバイタルデータを受信

《主な検証項目》

実際の救急現場での運用方法、手順、搬送後処置開始までの時間短縮効果  
必要な映像品質レベル

**既存の5G基地局を活用した**映像伝送と安定性  
**可搬型心電図モニター**の伝送と有効性

⇒最適かつ迅速な救急患者の搬送と受け入れ体制の早期構築への有効性を検証

《使用製品》

・EgCaster (ENWA株式会社) ・NORAV救急搬送モニタリング伝送システム (株式会社グッドケア)

【実証期間】

2022年11月1日から2022年12月頃まで

【実証施設】

刈谷豊田総合病院

＜実証の関係者＞

刈谷市企画財政部企画政策課

医療法人豊田会

NTTコミュニケーションズ株式会社